



令和6年1月1日現在

総人口 12,431人
男 6,045人
女 6,386人

世帯数 5,478世帯

島内公民館 電話 47-0264
FAX 40-1264



甲辰

これまで準備
してきたことが
形になる年

令和5年キャラリーピアツギ作品展
今井麻美子さん(ウツタワン小宮)制作

歴史を たどる 田んぼの中は何!?

県道320号「島内高松」の信号から東へ450メートル先の北側の田んぼの中に、1メートル四方ほどの四角いモノが飛び出しています。

田植えや稲刈りがやりにくそう、いったい何のためにあるのだろうと、田んぼの持ち主の津田アツコさん(高松)に伺いました。

昭和の中ごろ奈川渡ダムを建設する際に、ダムを作ることによってどのくらい



なっていました。津田さんは、井戸のひとつに自分の土地が選ばれたこ

地下の水位が変化するか、松本市内三ヶ所に井戸を掘って調査したそのひとつで、井戸の蓋を取れば水深が見えるようになっていたそうです。井戸のある場所は当時は田んぼではなく畦や水路でした。その後ほ場整備で景観が大きく変わり、井戸は田んぼの中に



とに特別な価値を感じて、取り壊さずにそのまま残してあるそうです。

師走の刃物研ぎ

12月13日、刃物研ぎ講座が、シルバー人材センターの方を講師に公民館で開催されました。年末恒例となっている講座です。この講座では普通の三徳包丁からそば切り包丁、そして、のこぎりや剪定鋏、鎌などの、さまざまな刃物を研ぐことができ、好評で今年



30名の方が参加しました。冒頭に講師から研ぎ方や砥石の種類についての説明があり、参加者の皆さんは真剣に聞いていました。

多くの方が包丁を持ってきており、数種類の砥石を使い丁寧に研いでいました。夫婦で参加した方は「切れ味の良いい包丁で、気持ちよく年末年始のお料理を作りたい」と話していました。

剪定鋏などは、講師の手作り専用器具に固定して研いでいました。剪定鋏を持ってきた方は、包丁とはまったく違った研ぎ方に苦戦しながら



も、「もう切れ味が落ちて買い替え時と思っていた。今日、持ってきて良かった」と笑顔になりました。

参加者は、気忙しい年末年始を控えて「研ぎ」に集中したひと時を過ごしていました。

臨時児童センター



11月、児童センターで床板張替工事が行われ、約1ヶ月間にわたり島内公民館を子どもたちは利用しました。

学校帰りの子どもたちが公民館の講堂に集まり、宿題をしたり、遊んだりしていました。11月は、寒い日が続きましたが、動き回って暖かく過ごせたようです。

児童センターの先生からは、子どもたちのほぼ全員が講堂に集まっていたので、子どもの色々な面を見ることができた。また、普段と違う場所で過ごしたこと「お邪魔している」という気持ちも学べたと思うという声がありました。

児童センターの工事も終わり、子どもたちは綺麗な床で伸び伸びと過ごしています。

楽しいけん玉教室

12月16日、長野県を中心に活動しているけん玉集団、Zuku Kendamas (ずく けんだま) を講師にけん玉教室を行いました。最初に持ち方や簡単な技を練習したあと、みんなのできるけん玉遊びをしました。

けん玉を額に乗せてバランスを取りながら体を動かしたり、けん玉同士で乾杯して相手の玉を落とすゲームなど

で、遊びながらけん玉に慣れていきました。次回は、2月17日(土) 午前10時から行います。



餅つき よいしょ!



12月2日、昔の遊びなどを体験する催しがありました。大勢の親子が参加して、凧やお手玉、独楽などを作り、小学校のグラウンドや公民館内で遊びました。



お手玉づくり

令和5年度 指導者視察研修会

地域住民と行政の協働

11月30日、町会長と町内公民館長や地域団体長たちが長野市へ研修に行きました。

今回の研修の目的は、「善光寺表参道の道路整備」の際に地域住民と行政が、どのように合意形成を図ったのかを学ぶためです。

長野市の担当者は、景観づくりの勉強会や、歩行者優先道路化に向けた社会実験を重ね、数年かけて地域と関係を

築き「歴史を活かしたまちづくり」を進めたと話していました。その後の参加者との意見交換も、大変活発に行われました。



今回は、3年ぶりに杵と臼を使った「餅つき」を行いました。子どもたちが交代で杵でつくると、「よいしょ」と元気な掛け声が響きました。つきあがった餅はあんこ餅やきな粉餅にして、スタッフが作った豚汁と一緒に食べました。みんな「おいしい」と笑顔で口いっぱい頬張っていました。



フラワーアレンジメント講座より

島高松駅周辺の花だん整備清掃等に対して 国土交通大臣賞受賞



高松常盤会



公民館 ホームページ



地域づくりセンター X(旧ツイッター)